小塩・清水谷論文(2005-04)へのコメント

大石　亜希子
（国立社会保障・人口問題研究所）

総括的なコメント

社会保障は高齢者の幸福（経済厚生）の改善に役立ったのか？という本質的な問題に正面から取り組んだ論文であり、政策的にも重要な研究である。本論文は NBER の国際共同研究プロジェクトの一環として実施されており、今後、日本の社会保障制度を国際的に位置づける上でも有益な研究になることが期待される。分析の中心は、社会保障給付と高齢者の well-being 指標の関係であるが、両者を時系列データで回帰してしまうと、見せかけの相関が生じてしまうため、それを除外するために注意深い作業が行われている。第 1 稿に対する評者からのコメントにも十分な対応がなされた。

今後の研究の方向性としては、各世代の平均像だけでなく世代内での格差に注目することが考えられる。また、社会保障給付と高齢期の同別居の関係については、Engelhardt, Gruber and Perry(2005)の研究のような方向での発展も可能と思われる。

Engelhardt, G.V., J. Gruber and C. D. Perry (2005) “Social Security and Elderly Living Arrangements,” *Journal of Human Resources,* 40(2), pp.354-372.